

学校だより 8・9月号

令和4年8月29日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

URL <https://koya-e-konosu.edumap.jp/>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月19日は「食育の日」です



自分を信じよう。やればできる！！

校長 棚澤 大輔



夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。39日間の長い休みの中で、コロナ禍ではありましたが、それぞれが学校ではできない様々な体験をしてきたことと思います。子どもたちには1学期の終業式で、「夏休みを自分自身の充電と2学期に向けての準備期間としましょう。」とお話ししました。本日から始まる2学期が、子どもたちにとって更なる成長の期間となることを期待しています。

さて、この夏読んだ書籍の中で、医師の鎌田實先生が書かれた文章を読む機会がありました。そこには、「自己肯定感を大切にし、自己効力感を発揮しよう」と書かれていました。今、コロナ禍で挫折感や絶望感に苛まれる人がいることを受け、先生は「自己肯定感を大切に」とアドバイスされていました。先生は自己肯定感のことを「あるがままの自分を受け入れること」、「欠点があっても、それでも大丈夫、やっていけると自分自身を信じる力」だとおっしゃっています。

私たち教職員も、教育活動の中で子どもたちに「自己肯定感」をもたせることを重視しており、学習活動や生徒指導などあらゆる場面で、一人ひとりを大切にする取組、具体的には、子どもの長所や頑張りを認めることや集団活動の中での役割を通して達成感を味わわせること、また、子どもの話に耳を傾けよく聞くことや、子どもが考える時間を確保し、その考えのもと行動する機会を設定する、など行っているところです。その際、教師の取組姿勢や言葉がけといった教室の雰囲気づくりも重視しています。

鎌田先生は続けて、「大丈夫、自分は自分とポジティブに考えを切り替えられれば、逆境は乗り越えられるはず」ともおっしゃっていました。私はそれを読んで、お笑いコンビのティモンディ・高岸宏行さんの「やればできる！」を思い浮かべました。彼は多くの野球少年が目指すようにプロ野球選手を目指していましたが、大学3年時に故障がもとで野球を断念。その際、「野球はできなくなったが、他の方法でみんなに勇気を与えることは」と考え、お笑い芸人を目指すこととなったそうです。そんな彼が先日、栃木ゴールデンブレーブスに入団し、プロ野球選手となり初登板を果たしたことは報道でご覧になった方もいたかと思います。

高岸さんは、今まで自分が受けた周りからの励ましの言葉や応援のパワーの凄さを体感し、野球断念後の残りの人生は「応援をする側に徹する」と決めたそうです。彼が言う応援とは、「目の前に対峙した相手の良いところを褒めること」、「その人自身が気づいていないかもしれない素晴らしい部分を伝えてあげること」なのだそうです。このことはまさに、「自己肯定感を高める」ために必要なことであり、学校で教職員が子どもたちを前にして大切にしたい姿勢そのものだと感じました。

彼の「やればできる！！」には、「やればベストを尽くすことができる・挑戦こそ楽しい」のであり、「もし成功しなかったとしても挑戦をしたのだから、それは君の成長なんだよ」という意味が込められているのだそうです。

これまで、舞台やテレビを通して送られてきた彼の満面の笑顔とオレンジの衣装からの「やればできる！！」に勇気づけられた人はたくさんいることでしょう。私たち教職員も満面の笑顔を浮かべながら、「大丈夫だよ。君ならやればできる！！」と小谷っ子一人ひとりを応援し、励まし、勇気づけてあげる存在でありたいとあらためて思った次第です。

夏休みにしっかりと充電してきた子どもたちが、新たな目標を立て2学期も成長しようとの思いをもって学校に戻ってきました。今学期も教職員一丸となって子どもたちの成長を支援してまいります。保護者・地域の皆様方、今学期もどうぞよろしくお願いいたします。

夏の終わりに一枚のはがきが学校に届きました。「ホームページで子どもたちの学校生活の様子を見ることを楽しみにしており、日々の更新に感謝します」といった内容でした。あたたかなお言葉を届けていただきありがとうございます。大変励みとなります。

今後も引き続き学校での子どもたちの様子を学校ホームページで公開してまいります。

(<https://koya-e-konosu.edumap.jp/>)